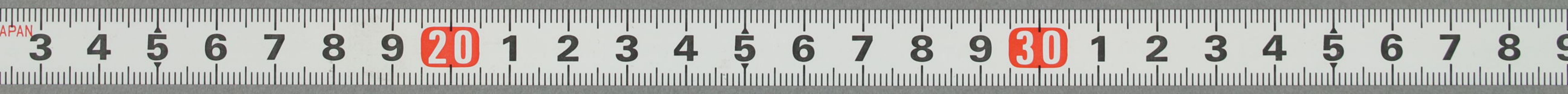
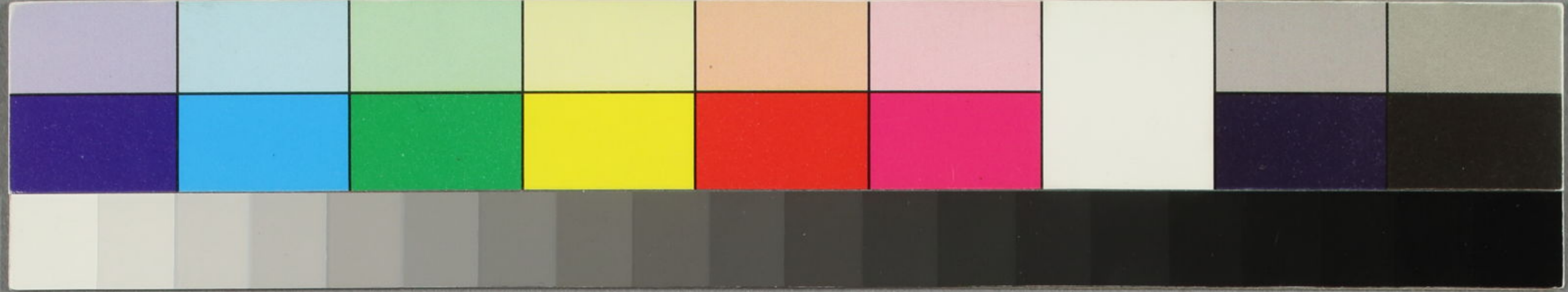


後者李贄子大坂

特別  
千13  
3849  
57(2)





門子 13  
3849  
卷 57-2

後者松離子

藤原定

大坂之巻目錄

之及統中之魚麿と

拂入者乃方の  
野丸事

納しふて

梨福をいさく

去史元巻入

一交弱せば子は先

高りつ

実のりんぬ





上上吉 中山文七 中山文七

上上吉 嵐表三希 中山文七

上吉 泉川権左 中山文七

上上二 中村千差 中山文七

上上 吉田清三 中山文七

上上 小川右之助 中山文七

上上 中山三右衛門 中山文七

上上 坂本三右衛門 中山文七

上上 沢村宗平 中山文七

上上 天鼓 中山文七

▲実魚之部

上上吉 山村清右衛門 中山文七

上上吉 尾上松助 中山文七

上上吉 戸田仁左衛門 中山文七

上上吉 嵐三八 中山文七

上上吉 三井松常 中山文七

上上吉 山村友右衛門 中山文七

上上吉 中山文七 中山文七

上上吉 嵐成次 中山文七

上上吉 嵐成次 中山文七

上上吉 嵐成次 中山文七

上上 清尾のち方 清尾

上上 市川宗三郎 市川

上上 望板のち方 望板

上上 後田徳平 後田

上上 三藤五郎 三藤

上上 山下又左 山下

上上 市川金次 市川

上上 三藤春彦 三藤

上上 嵐門十郎 嵐門

上上 市川金次 市川

上上 坂東金次 坂東

上上 市川金次 市川

上上 坂東金次 坂東

上上 市川金次 市川

上上 坂東金次 坂東

上上 市川金次 市川

上上 坂東金次 坂東

上上 市川金次 市川

▲ 名車殿之部

中山十七郎 中山

山ノ下吉次 山ノ下

▲ 義女殿之部

芳次いんば 芳次

三藤徳次郎 三藤

仲村お吉 仲村

後川友吉 後川

清尾仙之助 清尾

清尾

市川

市川

市川

市川

市川

市川

市川

市川

風ははたけを移すあり



中村己之介 一 中山秀吉  
 後川岩重 一 中山文市  
 嵐源吉 一 嵐秀吉  
 中村万之介 一 嵐寛之介

益吉書

▲ 勘忠忠姓  
 嵐三五郎

法皇に南へいのかい  
 ▲ 粗言作共之部

淡慶

迎書淡慶  
 京川七五郎  
 迎書淡慶  
 淡慶  
 京川七五郎  
 淡慶  
 京川七五郎  
 淡慶  
 京川七五郎

中山元

迎書中山元  
 中山元  
 迎書中山元  
 中山元  
 迎書中山元  
 中山元  
 迎書中山元  
 中山元

千秋茶案本樂

役者松離子

大坂三巻

用口

○ 素直のてし松平は長持好方  
 司出書子に物持の長持は好方  
 別家より縁無縁定之娘は好方  
 下二巻世  
 松平は長持好方

▲ 勘忠忠姓 三巻女

奉極書 ④ 町 籠助 淡慶  
 真上吉 ④ 山下金作 淡慶  
 大上吉 ④ 淡慶 為十郎 松平

為十郎は長持好方  
 松平は長持好方  
 大坂三巻





かゝる[四]をききしは[五]とて出立にけし[六]所  
権より[七]の[八]に[九]ふくむ[十]の[十一]に[十二]後  
とて[十三]入も出ても[十四]の[十五]とて[十六]に[十七]の  
入も出ても[十八]の[十九]とて[二十]の[二十一]に[二十二]の  
[二十三]は[二十四]の[二十五]とて[二十六]の[二十七]に[二十八]の  
とて[二十九]の[三十]に[三十一]の[三十二]に[三十三]の[三十四]に  
とて[三十五]の[三十六]に[三十七]の[三十八]に[三十九]の[四十]に  
とて[四十一]の[四十二]に[四十三]の[四十四]に[四十五]の[四十六]に  
とて[四十七]の[四十八]に[四十九]の[五十]に[五十一]の[五十二]に  
とて[五十三]の[五十四]に[五十五]の[五十六]に[五十七]の[五十八]に  
とて[五十九]の[六十]に[六十一]の[六十二]に[六十三]の[六十四]に  
とて[六十五]の[六十六]に[六十七]の[六十八]に[六十九]の[七十]に  
とて[七十一]の[七十二]に[七十三]の[七十四]に[七十五]の[七十六]に  
とて[七十七]の[七十八]に[七十九]の[八十]に[八十一]の[八十二]に  
とて[八十三]の[八十四]に[八十五]の[八十六]に[八十七]の[八十八]に  
とて[八十九]の[九十]に[九十一]の[九十二]に[九十三]の[九十四]に  
とて[九十五]の[九十六]に[九十七]の[九十八]に[九十九]の[百]

所[一]の[二]に[三]の[四]に[五]の[六]に[七]の[八]に[九]の[十]に  
かゝる[十一]の[十二]に[十三]の[十四]に[十五]の[十六]に[十七]の[十八]に  
かゝる[十九]の[二十]に[二十一]の[二十二]に[二十三]の[二十四]に  
かゝる[二十五]の[二十六]に[二十七]の[二十八]に[二十九]の[三十]に  
かゝる[三十一]の[三十二]に[三十三]の[三十四]に[三十五]の[三十六]に  
かゝる[三十七]の[三十八]に[三十九]の[四十]に[四十一]の[四十二]に  
かゝる[四十三]の[四十四]に[四十五]の[四十六]に[四十七]の[四十八]に  
かゝる[四十九]の[五十]に[五十一]の[五十二]に[五十三]の[五十四]に  
かゝる[五十五]の[五十六]に[五十七]の[五十八]に[五十九]の[六十]に  
かゝる[六十一]の[六十二]に[六十三]の[六十四]に[六十五]の[六十六]に  
かゝる[六十七]の[六十八]に[六十九]の[七十]に[七十一]の[七十二]に  
かゝる[七十三]の[七十四]に[七十五]の[七十六]に[七十七]の[七十八]に  
かゝる[七十九]の[八十]に[八十一]の[八十二]に[八十三]の[八十四]に  
かゝる[八十五]の[八十六]に[八十七]の[八十八]に[八十九]の[九十]に  
かゝる[九十一]の[九十二]に[九十三]の[九十四]に[九十五]の[九十六]に  
かゝる[九十七]の[九十八]に[九十九]の[百]

世に統の事かまねを [国] 治るは世の  
為に治るは世の事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の

事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の  
事かまねを [国] 治るは世の

かゝる疑は仕度無きやうに後所は行て  
よく二夜丹を其力とて二夜丹を其力  
あり<sup>三</sup>と花を後のよき花は川の如の  
後との心をあつてとちかき<sup>四</sup>病り  
法を感てころも花を感ては夏美ら  
花を<sup>五</sup>花を<sup>六</sup>花を<sup>七</sup>花を<sup>八</sup>花を<sup>九</sup>花を<sup>十</sup>花を  
花を<sup>十一</sup>花を<sup>十二</sup>花を<sup>十三</sup>花を<sup>十四</sup>花を<sup>十五</sup>花を  
花を<sup>十六</sup>花を<sup>十七</sup>花を<sup>十八</sup>花を<sup>十九</sup>花を<sup>二十</sup>花を  
花を<sup>二十一</sup>花を<sup>二十二</sup>花を<sup>二十三</sup>花を<sup>二十四</sup>花を<sup>二十五</sup>花を  
花を<sup>二十六</sup>花を<sup>二十七</sup>花を<sup>二十八</sup>花を<sup>二十九</sup>花を<sup>三十</sup>花を  
花を<sup>三十一</sup>花を<sup>三十二</sup>花を<sup>三十三</sup>花を<sup>三十四</sup>花を<sup>三十五</sup>花を  
花を<sup>三十六</sup>花を<sup>三十七</sup>花を<sup>三十八</sup>花を<sup>三十九</sup>花を<sup>四十</sup>花を  
花を<sup>四十一</sup>花を<sup>四十二</sup>花を<sup>四十三</sup>花を<sup>四十四</sup>花を<sup>四十五</sup>花を  
花を<sup>四十六</sup>花を<sup>四十七</sup>花を<sup>四十八</sup>花を<sup>四十九</sup>花を<sup>五十</sup>花を  
花を<sup>五十一</sup>花を<sup>五十二</sup>花を<sup>五十三</sup>花を<sup>五十四</sup>花を<sup>五十五</sup>花を  
花を<sup>五十六</sup>花を<sup>五十七</sup>花を<sup>五十八</sup>花を<sup>五十九</sup>花を<sup>六十</sup>花を  
花を<sup>六十一</sup>花を<sup>六十二</sup>花を<sup>六十三</sup>花を<sup>六十四</sup>花を<sup>六十五</sup>花を  
花を<sup>六十六</sup>花を<sup>六十七</sup>花を<sup>六十八</sup>花を<sup>六十九</sup>花を<sup>七十</sup>花を  
花を<sup>七十一</sup>花を<sup>七十二</sup>花を<sup>七十三</sup>花を<sup>七十四</sup>花を<sup>七十五</sup>花を  
花を<sup>七十六</sup>花を<sup>七十七</sup>花を<sup>七十八</sup>花を<sup>七十九</sup>花を<sup>八十</sup>花を  
花を<sup>八十一</sup>花を<sup>八十二</sup>花を<sup>八十三</sup>花を<sup>八十四</sup>花を<sup>八十五</sup>花を  
花を<sup>八十六</sup>花を<sup>八十七</sup>花を<sup>八十八</sup>花を<sup>八十九</sup>花を<sup>九十</sup>花を  
花を<sup>九十一</sup>花を<sup>九十二</sup>花を<sup>九十三</sup>花を<sup>九十四</sup>花を<sup>九十五</sup>花を  
花を<sup>九十六</sup>花を<sup>九十七</sup>花を<sup>九十八</sup>花を<sup>九十九</sup>花を<sup>一百</sup>花を

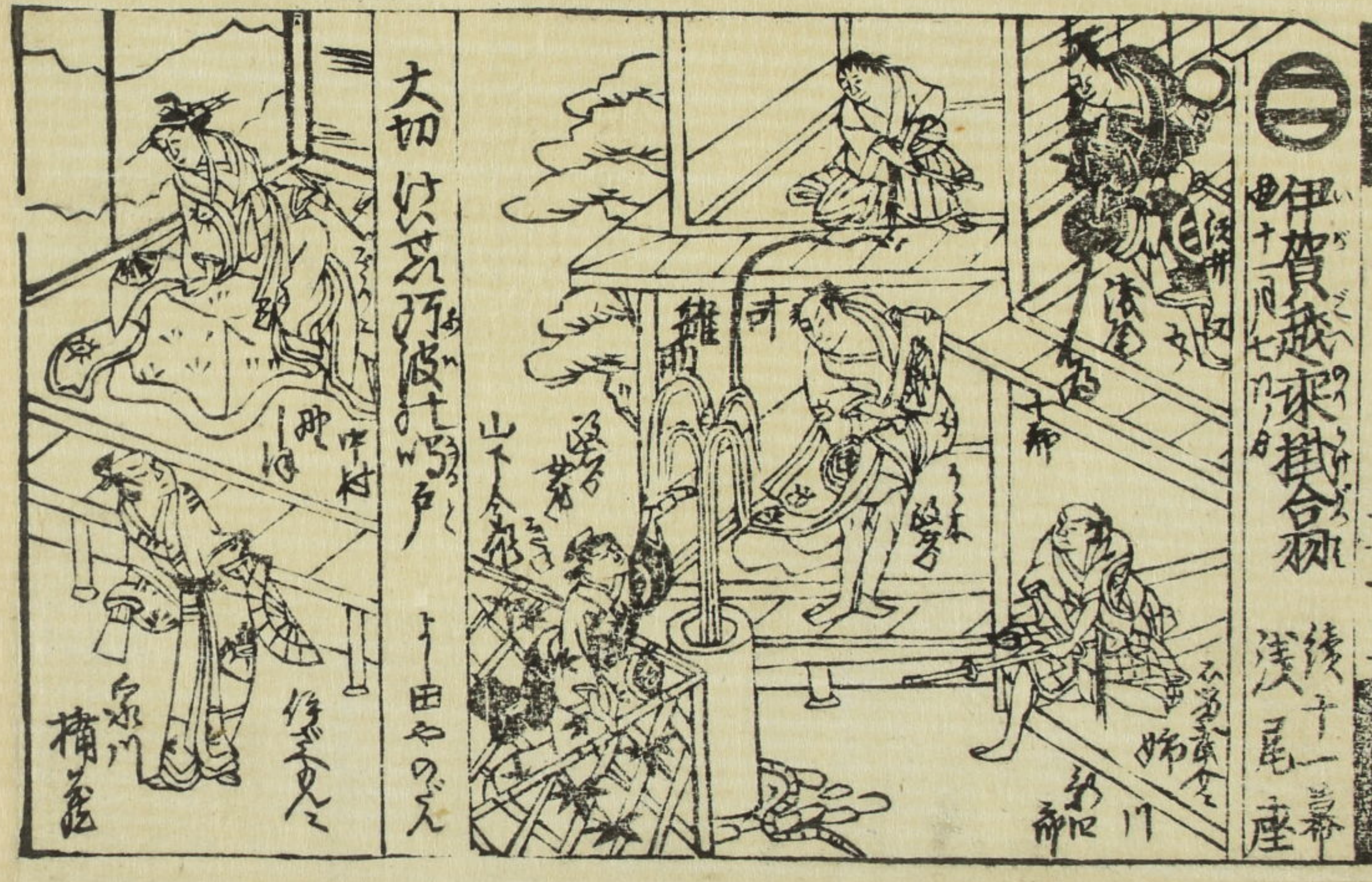
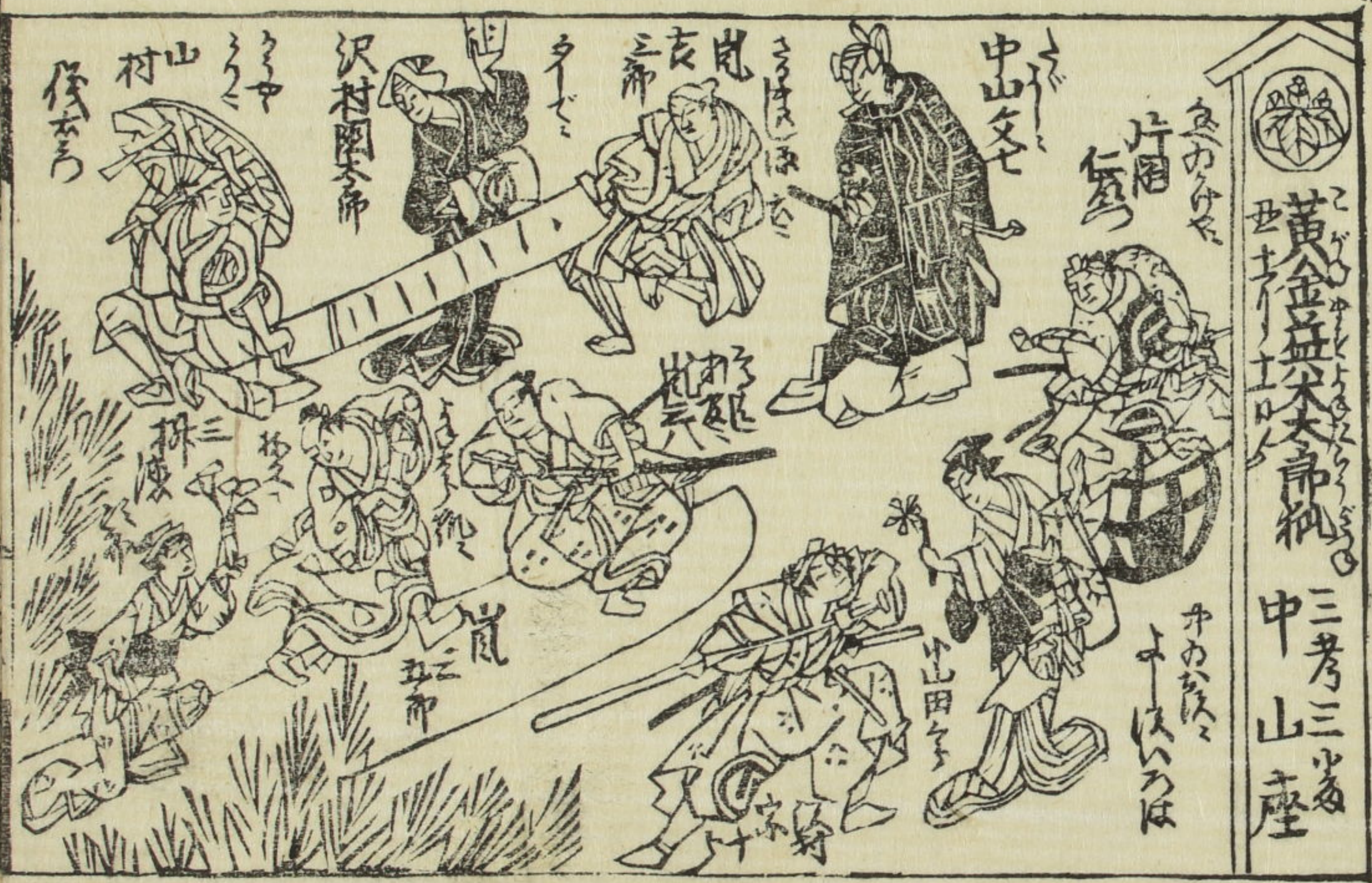
五人出たとき二八分まで二夜三  
まも花のよきとて二夜丹を其力  
<sup>一</sup>花を<sup>二</sup>花を<sup>三</sup>花を<sup>四</sup>花を<sup>五</sup>花を<sup>六</sup>花を<sup>七</sup>花を<sup>八</sup>花を<sup>九</sup>花を<sup>十</sup>花を  
花を<sup>十一</sup>花を<sup>十二</sup>花を<sup>十三</sup>花を<sup>十四</sup>花を<sup>十五</sup>花を<sup>十六</sup>花を<sup>十七</sup>花を<sup>十八</sup>花を<sup>十九</sup>花を  
花を<sup>二十</sup>花を<sup>二十一</sup>花を<sup>二十二</sup>花を<sup>二十三</sup>花を<sup>二十四</sup>花を<sup>二十五</sup>花を<sup>二十六</sup>花を<sup>二十七</sup>花を<sup>二十八</sup>花を<sup>二十九</sup>花を<sup>三十</sup>花を  
花を<sup>三十一</sup>花を<sup>三十二</sup>花を<sup>三十三</sup>花を<sup>三十四</sup>花を<sup>三十五</sup>花を<sup>三十六</sup>花を<sup>三十七</sup>花を<sup>三十八</sup>花を<sup>三十九</sup>花を<sup>四十</sup>花を  
花を<sup>四十一</sup>花を<sup>四十二</sup>花を<sup>四十三</sup>花を<sup>四十四</sup>花を<sup>四十五</sup>花を<sup>四十六</sup>花を<sup>四十七</sup>花を<sup>四十八</sup>花を<sup>四十九</sup>花を<sup>五十</sup>花を  
花を<sup>五十一</sup>花を<sup>五十二</sup>花を<sup>五十三</sup>花を<sup>五十四</sup>花を<sup>五十五</sup>花を<sup>五十六</sup>花を<sup>五十七</sup>花を<sup>五十八</sup>花を<sup>五十九</sup>花を<sup>六十</sup>花を  
花を<sup>六十一</sup>花を<sup>六十二</sup>花を<sup>六十三</sup>花を<sup>六十四</sup>花を<sup>六十五</sup>花を<sup>六十六</sup>花を<sup>六十七</sup>花を<sup>六十八</sup>花を<sup>六十九</sup>花を<sup>七十</sup>花を  
花を<sup>七十一</sup>花を<sup>七十二</sup>花を<sup>七十三</sup>花を<sup>七十四</sup>花を<sup>七十五</sup>花を<sup>七十六</sup>花を<sup>七十七</sup>花を<sup>七十八</sup>花を<sup>七十九</sup>花を<sup>八十</sup>花を  
花を<sup>八十一</sup>花を<sup>八十二</sup>花を<sup>八十三</sup>花を<sup>八十四</sup>花を<sup>八十五</sup>花を<sup>八十六</sup>花を<sup>八十七</sup>花を<sup>八十八</sup>花を<sup>八十九</sup>花を<sup>九十</sup>花を  
花を<sup>九十一</sup>花を<sup>九十二</sup>花を<sup>九十三</sup>花を<sup>九十四</sup>花を<sup>九十五</sup>花を<sup>九十六</sup>花を<sup>九十七</sup>花を<sup>九十八</sup>花を<sup>九十九</sup>花を<sup>一百</sup>花を













此の補綴は、その所の所定の本に支七の石  
 おも補綴は、あつてその所定の本に支七の石  
 母りて、その所定の本に支七の石  
 どのの母りて、その所定の本に支七の石  
 急と、あつてその所定の本に支七の石  
 う、その所定の本に支七の石  
 の、その所定の本に支七の石  
 其、その所定の本に支七の石  
 万、その所定の本に支七の石  
 原、その所定の本に支七の石  
 の、その所定の本に支七の石  
 の、その所定の本に支七の石  
 わ、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石  
 何、その所定の本に支七の石

て、補綴せらるる所の所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石

急、その所定の本に支七の石  
 急、その所定の本に支七の石



ひのきく海人の語は新社の名にぞく  
其の目もく國に於て御のまに御なる  
くと本宮の御のまに御なる  
よ<sup>四</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>五</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>六</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>七</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>八</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>九</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十一</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十二</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十三</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十四</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十五</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十六</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十七</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十八</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>十九</sup>國主の御のまに御なる  
よ<sup>二十</sup>國主の御のまに御なる

ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる  
ハとあ人の御のまに御なる

上上吉  泉川楠宮 浅尾社

泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる  
泉川楠宮の御のまに御なる



神皇正統記下付の命をくそ定めて人  
とせ

上上 ④ 小川を帝 後集

神皇正統記と云ふ所のあふは出づるが故に  
師と云ふがあらはれぬや 神皇正統記 強食  
の事述べて出まてあさる 神皇正統記 世集  
の事もあつたといふ事にはあつた  
まゝに後集をばはれぬと云ふはあつた  
ていふ事なく

上上 ⑤ 中山を帝 中集

神皇正統記 平集をばはれぬと云ふ事なく  
あつたといふ事なく 神皇正統記 中山の  
事述べて出まてあさる 神皇正統記 世集  
の事もあつたといふ事にはあつた  
まゝに後集をばはれぬと云ふはあつた  
ていふ事なく

上上 ⑥ 坂東を帝 中集

神皇正統記 坂東をばはれぬと云ふ事なく  
あつたといふ事なく 神皇正統記 坂東の  
事述べて出まてあさる 神皇正統記 世集  
の事もあつたといふ事にはあつた  
まゝに後集をばはれぬと云ふはあつた  
ていふ事なく

上上 ⑦ 沃村を帝 中集

神皇正統記 沃村をばはれぬと云ふ事なく  
あつたといふ事なく 神皇正統記 沃村の  
事述べて出まてあさる 神皇正統記 世集  
の事もあつたといふ事にはあつた  
まゝに後集をばはれぬと云ふはあつた  
ていふ事なく



